

発電システムによる
自家消費率

2023.7～2024.6

13.9%

第1工場・第4工場
負荷消費電力



目 次

1. 環境経営方針	3
2. 会社沿革とエコアクション 21 活動等	4
3. 環境管理組織図～役割と権限	5
4. 再生可能エネルギーの活用	6
5. 省エネ事例	8
6. SDGs ボランティア・ベンダー	10
7. 環境負荷の状況	11
8. 環境経営目標	12
9. 主な環境活動計画、取組結果とその評価及び、次年度の取組内容	14
10. 緊急事態の想定	21
11. 主な環境関連法規の遵守状況	22
12. 代表者による全体評価と見直し及び、組織の概要と主な事業内容	23 P



1. 環境経営方針

基本理念

グローバル・コーティング株式会社は品質最優先の思想に基づき、お客様の満足度を向上させる仕組みを運用し、より良い品質・顧客満足度の高い乾性潤滑被膜処理、樹脂含浸処理を提供する企業です。自動車部品や精密機械部品などのさまざまな製品に乾性潤滑被膜処理や樹脂含浸処理を施すことにより、部品の耐久性や摩擦ロスをなくし、低燃費化や効率化といった効果や加工コストの削減をもたらし、それにかかわるエネルギー資源削減への貢献を目指します。

当社は、地球環境保全が人類共通の重要課題と認識し、循環型の社会システムの構築を目指すと共に、地球環境にやさしい事業活動を行い、社会の公器として歩みます。

環境経営方針

当社事業活動の特性を踏まえ、以下の原則を履行し環境管理を行います。

当社の事業活動が関わる環境影響を的確に捉え、環境汚染の予防を推進するとともに環境経営システムの継続的改善を図ります。

当社の事業活動に関係して適用可能な法的要求事項及びその他の要求事項を遵守し、環境保全に取り組みます。

当社の事業活動における省エネルギー・省資源の推進、廃棄物の削減、化学物質の削減に取り組み、環境保全の向上に努めます。

この環境経営方針を達成するため、組織で働く人々及び組織のために働く人々への環境経営方針の理解と環境情報の周知徹底を行い、環境保全に関する意識の向上を図ります。

この環境経営方針は、社外にも公開します。

制定 2013年2月25日

改定 2018年4月 6日

グローバル・コーティング株式会社

代表取締役社長 鈴木 敦

2.会社沿革とエコアクション 21 活動等

- 1977 年 グローバル・コーティング設立
- 1978 年 第一工場を開設、乾性潤滑被膜処理加工を開始
- 1983 年 金属封孔含浸剤の処理加工を開始
- 1989 年 第二工場を開設
- 1997 年 プラテクト処理をスタート
- 2003 年 ISO9001 を取得
- 2007 年 防錆被膜処理「デルタコート」の処理を開始
- 2011 年 第三工場を開設
- 2013 年 エコアクション 21 認証取得
- 2017 年 第四工場を開設



2014 年 サクラソウトラスト地 保全活動開始

2015 年 ものづくり創造セミナーにて、エコアクション 21 における環境経営活動を発表

2019 年 埼玉県上尾市環境推進大会 2019 あげお環境賞受賞



2021 年 第 24 回 環境コミュニケーション大賞 環境経営レポート部門 優良賞受賞



★トピックス★

- ・グローバル・コーティング SDGs 活動
- ・第 10 回 環境保全活動
トラスト地 遊歩道づくり

環境省ホームページで SDGs インタビュー動画公開

2022 年 埼玉県 SDGs パートナー登録

彩の国環境活動推進会様主催 エコアクション 21 優良事業者研究会 開催

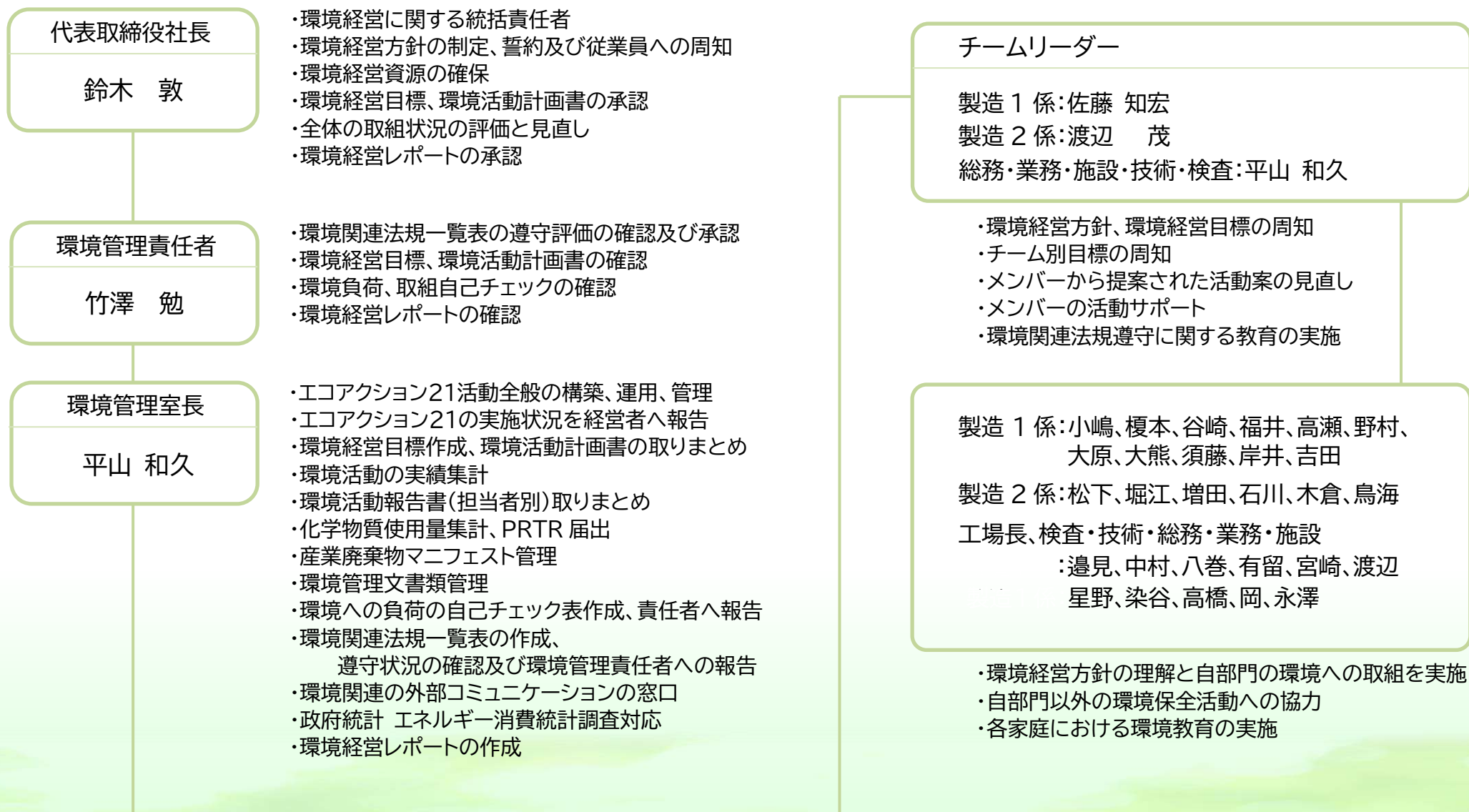
2024 年 エコアクション 21 オブザイヤー2023 環境経営レポート部門 優良賞受賞



★トピックス★

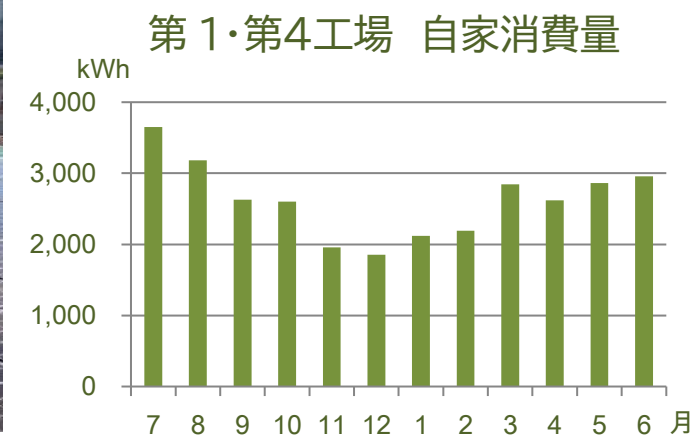
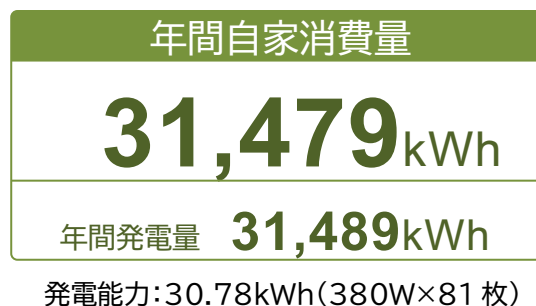
- ・SDGs ボランティア・バンダー開始
- ・第 3 回 標語コンテスト (SDGs 編)
- ・トラスト地 保全活動の取組を紹介 (2014~)
- ・優良事業者研究会にて
グローバル・コーティングの活動例を紹介

3.環境管理組織図 _ 役割と権限



4. 再生可能エネルギーの活用

2022 年 7 月下旬、自家消費用として、第 4 工場に発電システムを設置。第 1 工場と第 4 工場に電気を供給しています。
前期(2023 年度)の第 1 工場と第 4 工場の負荷消費電力は 226,427kWh。発電システムによる自家消費量は 31,479kWh で 13.9%を発電システムにより賄いました。同工場の電気代を単純計算で、年間 761,792 円、節約できたこととなります(※)。



	2023.7						2024.1					
自家消費量(kWh)	3,653	3,183	2,630	2,601	1,959	1,856	2,119	2,193	2,845	2,618	2,865	2,958
(四捨五入)												

※2023 年度 (2023. 07～2024. 06) 平均単価 24.2 円/kWh 換算

第二工場と第三工場に設置している発電システムは、売電専用。2013 年 12 月に設置し、2024 年 6 月までの発電量は、252,193kWh。スギの木に換算すると約 5,665 本を植樹した計算になります(※2)。

年間発電量

27,543kWh

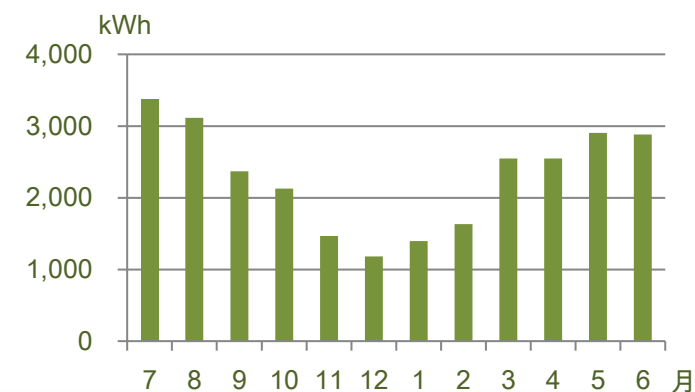
発電能力:30kWh(250W×120 枚)
設置面積:70 坪(230 m²)



第三工場



第二工場



第2、第3工場 発電量

※2 杉の木 1 本あたりの年間吸収量を 14kg として算出

5. 省エネ事例

エア流量値を確認するための監視カメラを設置

現在、各工場に計5台の含浸装置を保有しています。この含浸装置のタンク内には、製品の封孔処理に必要な含浸剤が投入されています。うち4台は含浸剤が硬化しないようエアを供給し、常時バブリングを行っています。
このバブリングに必要なエアが規定量流れているか、スマホやタブレットでも確認できるようにしました。



2020 年、施設管理課にて試験的に 1 つ取り付け。
2021 年、Wi-Fi 環境を整え、他機にも展開。

このことにより、事務所や工場外からでも確認することが可能になり、含浸剤(原材料)の不良(硬化)や、含浸剤硬化による装置不良やライン停止を未然に防ぐことが可能になりました。
また、停電や地震が発生した場合は、休日や夜間であっても出社し、正常にバブリングされているかなど確認する必要がありました。現在はカメラを通して状態を確認することが可能となり、車を走らせ、ガソリンを消費することも無くなりました。

工場エアを見える化

2021 年、クランプオン式気体流量計の設置。
現在の流量値はもちろん、1 時間あたりの流量も確認可能です。
夜間や休日、また、ライン稼働時の流量を把握することができ、正常時の数値と比較することでリークの有無を判断することも可能です。
流量計の取り付けはクランプオン式のため、配管工事は不要です。



工事費用はもちろん、配管部品を廃棄することはありません。
また、流量データを吸い上げることもでき、
バブリング不良時の原因分析にも役立ちます。

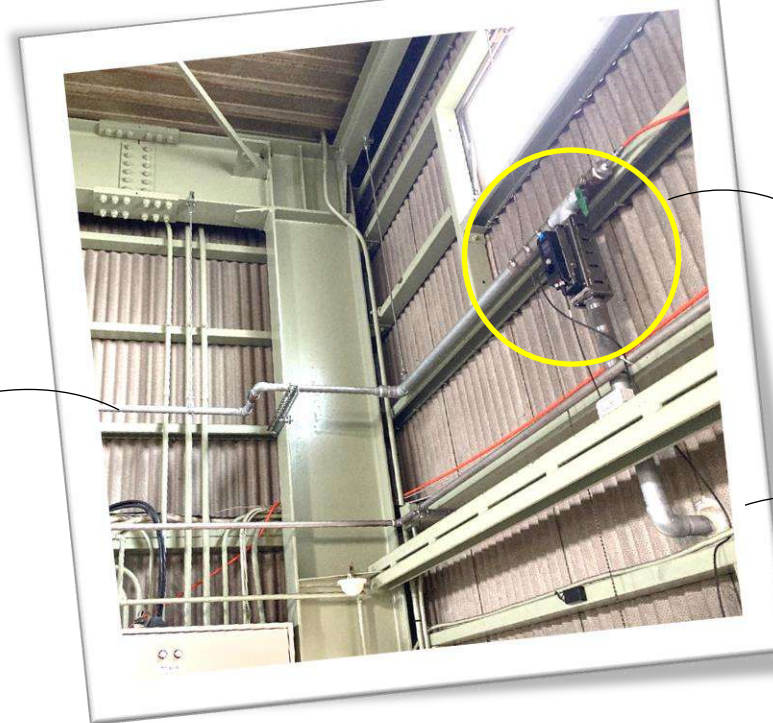
省エネ・リサイクル



最近では新聞購読者が減り、新聞が溜まりません。
そこで、家庭で不要となった緩衝材を会社で再利用しようという試みです。
入荷時、同じような緩衝材が使われ、油付着等で再利用できない場合や
梱包上、必要な場合のみ利用します。

回収 BOX が段ボールであることや、
入れ方・置き方により見た目が悪くなるため、
改善の余地あり

エア配管



エア流量計

この先は
コンプレッサー



6. SDGs ボランティア・ベンダー

ボランティア・ベンダーのしくみ

ボランティア・ベンダーで飲料水が購入されることにより、1本の売上につき、**設置先の1円、飲料メーカー様の1円、自動販売機サービス企業様の1円**の合計3円が寄付されます。

※寄付先は、設置先(弊社)にて指定。

※半年毎に、自動販売機サービス企業様より領収書をいただきます。



ボランティア・ベンダーの主な寄付先

- | | |
|------------------------|--------------------|
| ・エイズ予防財団 | ・さわやか福祉財団 |
| ・J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動) | ・ESA アジア教育支援の会 |
| ・明美ちゃん募金 | ・神奈川県共同募金会 |
| ・国土緑化推進機構 | ・千葉県共同募金会 |
| ・恩賜財団済生会高松宮記念基 | ・埼玉県共同募金会 |
| ・ハンガー・フリー・ワールド | ・栃木県共同募金会 |
| ・ア・ドリーム・ア・デイ IN TOKYO | ・国際連合世界食糧計画 WFP 協会 |
| ・メイク・ア・ウィッシュオブジャパン | ・WWF ジャパン |
| ・被害者支援都民センタ | ・東日本盲導犬協会 |
| ・ゴールドリボン・ネットワーク | ・日本骨髄バンク |
| ・消防育英会 | ・ジャパンケネルクラブ |
| ・日本障害者リハビリテーション協会 | ・ジョイセフ |

寄付型自販機



寄付金額

累計

13,344円

期間:2022年10月1日～

2024年3月31日時点

上記期間の販売本数:13,344本

自販機設置台数:1台

7. 環境負荷の状況

環境への負荷			単位	基準年度	当年度
				2022 年度	2023 年度
				46 期 2022/7 - 2023/6	47 期 2023/7 - 2024/6
温室効果ガス排出量	二酸化炭素(※)		kg-CO ₂	173,926	170,878
廃棄物排出量及び 廃棄物最終処分量	一般廃棄物	紙ゴミ、雑屑	kg	760	730
		最終処分量	kg	0	0
	産業廃棄物	廃プラスチック	kg	11,320	8,170
		廃油	kg	70,700	69,740
		木屑、汚泥	kg	5,120	1,230
		最終処分量	kg	5,120	1,230
総排水量	公共用水域		m ³	838	831
	下水道		m ³	0	0
水使用量	上水		m ³	1,572	1,560
	工業用水		m ³	0	0
	地下水		m ³	0	0
化学物質使用量			kg	20,231	19,875
エネルギー使用量	電 力		kWh	394,120	391,923
	化石燃料(都市ガス)		Nm ³	28,577	24,770
	化石燃料(LPG)		kg	28	27
	ガソリン		ℓ	3,643	3,013

8. 環境経営目標

【2023 年度 47 期 目標】

2022 年度 46 期比

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1. 電力の二酸化炭素排出量の削減 | 2%削減 |
| 2. 化石燃料の二酸化炭素排出量の削減 | 2%削減 |
| 3. 一般廃棄物及び産業廃棄物の削減 | 2%削減 |
| 4. 水道使用量の削減 | 1%削減 |
| 5. 不良削減(製品不良、設備異常の削減) | 製品不良 8 件以下、設備異常 4 件以下 |
| 6. PRTR 関連物質の使用量の削減(臭素系溶剤購入量削減) | 1%削減 |

その他の目標に関する項目

環境汚染の予防、環境経営方針の理解(教育訓練)、遵法、近隣清掃活動

<基準年について>

2022 年度(46 期)より、基準年を 2021 年度(45 期)に変更。

以後、毎年、“**基準期**”を**前期**とする形に変更。

長期環境目標

2030 年

CO₂ 排出量 [総 量]

2013年比 46%減

排出量

2013 年 314,127kg-CO₂

目 標

2030 年 169,629kg-CO₂

実 績

2023 年 170,878kg-CO₂

45.6%減

中期環境目標:3年間

基準年度

当年度

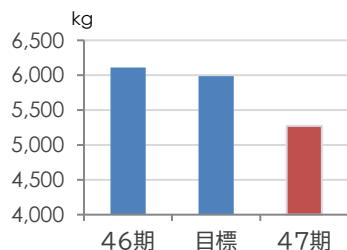
削減率、実施回数	2022 年 46 期	2023 年 47 期	2024 年 48 期	2025 年 49 期
二酸化炭素排出量の削減				
CO ₂ 削減率(%)		-2.0	-3.0	-4.0
CO ₂ 排出量(kg/1,000 万)	6,110	5,988	5,927	5,866
一般廃棄物及び産業廃棄物の削減				
一般廃棄物削減率(%)		-2.0	-3.0	-4.0
産業廃棄物削減率(%)		-2.0	-3.0	-4.0
廃棄物排出量(kg/1,000 万)	2,553	2,502	2,476	2,451
水道水使用量の削減				
水削減率(%)		-2.0	-3.0	-4.0
水使用量(m ₃ /1,000 万)	58.7	57.5	56.9	56.4
不良削減(製品不良、設備異常の削減)				
製品:不良件数 (件)以下	12	8	7	6
設備:不良件数 (件)以下	5	4	3	2
PRTR 関連物質の使用量の削減(臭素系溶剤使用量の削減)				
臭素系溶剤使用量削減率(%)		-1.0	-2.0	-3.0
化学物質排出量(kg/1,000 万)	107	106	105	104
近隣清掃活動				
実施回数(回) 上期 1 回、下期 1 回	2	2	2	2

9. 主な環境活動計画、取組結果とその評価及び、次年度の取組内容

電力、化石燃料の CO₂ 削減



環境管理室長コメント



個々の活動結果を見ると、入荷ロットの 80% を自然乾燥という目標を掲げた「なるべく自然乾燥」は、機会 98 回に対し、自然乾燥 81 回。入荷ロットに対し 83% 実施で目標をクリア。「少量品はまとめて焼成」の活動についても目標をクリアするなど、目標を達成した活動が目立った。

目標達成



焼成条件等が同じ製品は同時焼成



スマートメーター



スマートクロック

2023 年度の活動

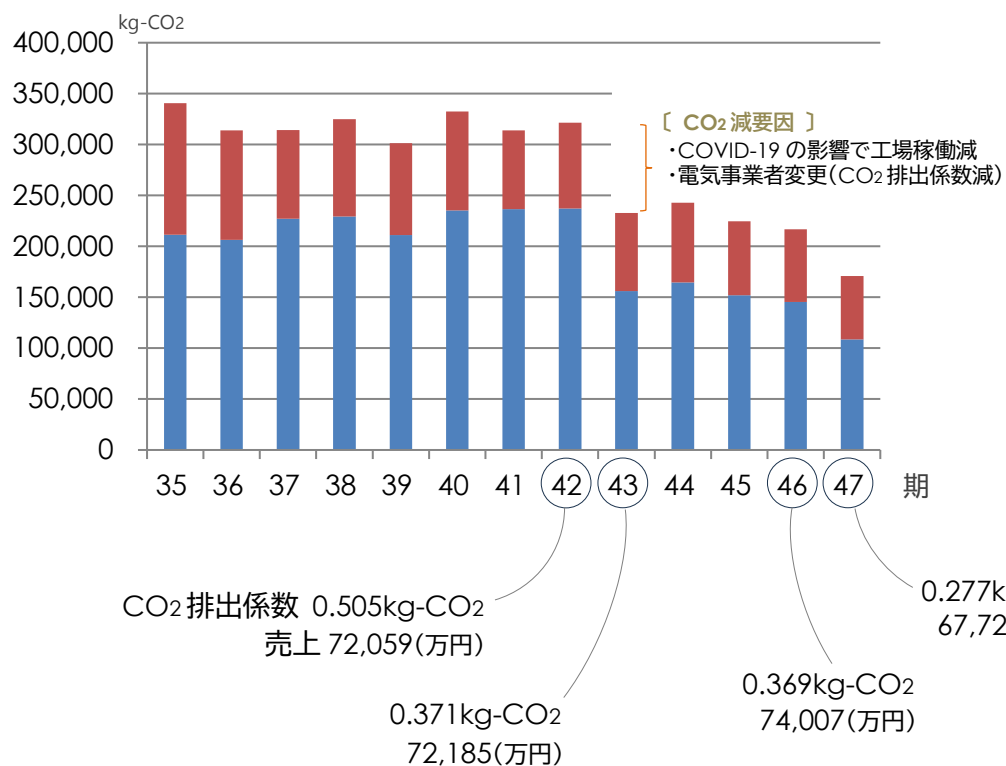


- ・手吹き塗装：一部の塗料のみ、なるべく自然乾燥
- ・塗装ロボット 2 号機：なるべく自然乾燥
- ・タンブリング製品：焼成条件等が同じ製品は同時焼成
- ・タンブリング・半自動塗装製品：少量品は同時焼成
- ・塗装ロボット 1 号機：少量品は同時焼成
- ・脱脂品をまとめて脱脂
- ・第 1 工場 工場扇 4 基を作業終了後に停止
- ・第 1 工場 昼休み、使用していない照明の消灯を徹底
- ・含浸 5 号機ライン：冷却用扇風機 4 台を使用しない時はスイッチオフ
- ・含浸 3 号機ライン：湯洗槽 昼休みの電源を切りガス使用量の削減
- ・エアドライヤー、コンプレッサーのフィルター清掃を毎月実施し、電力使用量削減
- ・営業車のガソリン使用量 5% 削減及び燃費 5% UP

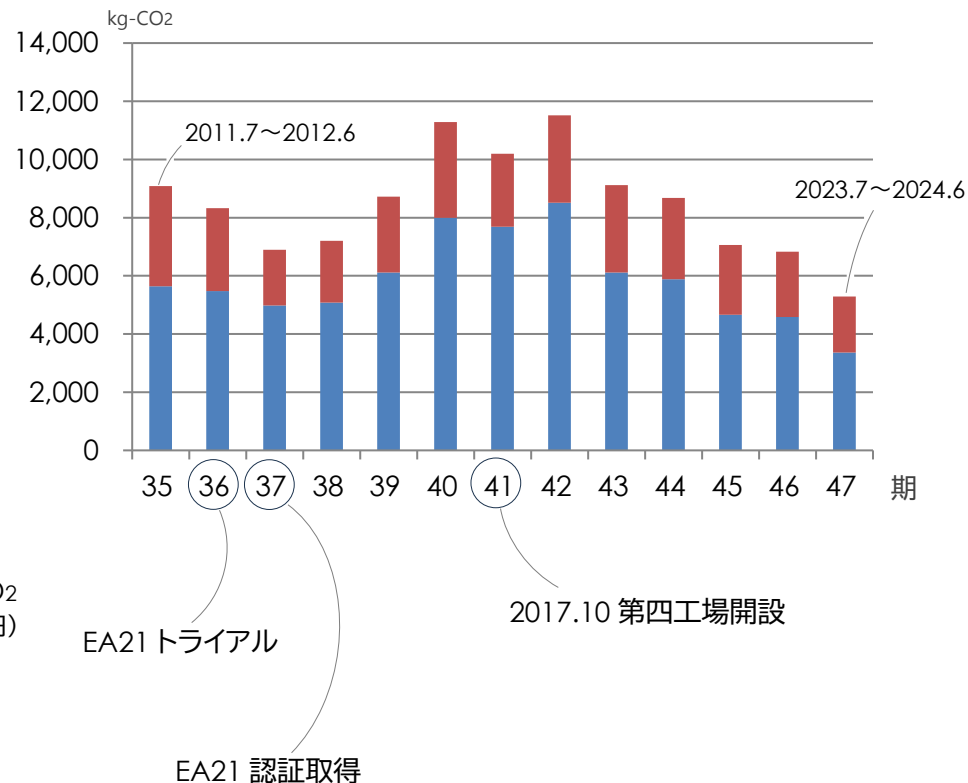
当年度以前より継続している活動

- ・処理槽定温で蒸気バルブ“閉” (30 分×2 回/日、閉)
- ・湯洗槽に保温材を使用
- ・焼成は、製品により小型炉に限定
- ・照明をこまめに消す ・作業時以外の工場扇停止
- ・朝夕、ガスメーター検針 (異常時速対応) など
- ・乾燥炉の扉付近からの放熱量を低減
- ・各設備に電力使用量 (目安) を貼り付け
- ・長期休暇はプラグを抜く (待機電力カット)
- ・スマートメーター、スマートクロックを使用し、ピーク電力管理
- ・2013 年より、ガス炊きボイラーを利用 (以前は灯油炊き)

期別 CO₂ 排出量 [総 量]



期別 CO₂ 排出量 [売上1,000 万円あたり]



■ 化石燃料 CO₂ 排出量

■ 電力 CO₂ 排出量

廃棄物削減



2023 年度の活動

- ・裏紙の再利用 出荷案内書 作業日報を印刷
- ・労務士や派遣会社へ送付する勤務表の確認印をデジタル化し PDF のみで運用。紙への出力をやめる
- ・お客様専用伝票の保管用コピー(※)を2回に 1 回は裏紙で行う

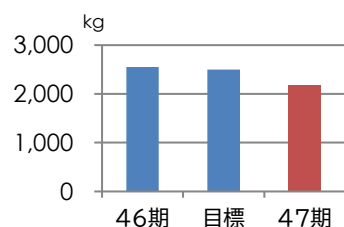
当年度以前より継続している活動

- ・臭素系溶剤を専用設備で再生し再利用
- ・通い箱固定のPPバンドをゴムバンドに変更
- ・PP バンド及びストッパーを再利用
- ・コピー用紙の裏紙利用
- ・ストレッチフィルム使用量の削減
- ・布ウエス大小 2 種用意。状況により使い分け
- ・廃液を塗装ブースで再利用
- ・荷物の送り状削減(web で発行)
- ・ペットボトルキャップの回収・リサイクル
- ・一般廃棄物(古紙類、段ボール)、産業廃棄物(プラ、金属類)の分別及びリサイクルの推進
- ・封筒(窓ありセロハン仕様)をグラシン紙仕様に変更
セロハンを切り取ることなく、そのまま古紙リサイクルが可能



環境管理室長コメント

目標達成



湯洗槽の水質維持を図るため、ろ過用ポンプを導入。
このことにより水の交換頻度を低くし、産廃量を抑えることが出来た。

PP バンドの再利用



グラシン紙仕様



ペットボトルキャップの
回収・リサイクル



水道水使用量の削減



2023 年度の活動

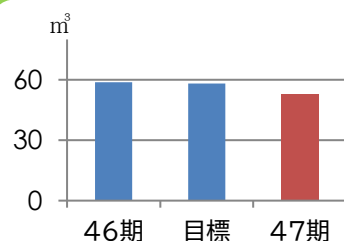
- ・朝夕、水道メーター検針を確認（継続）

当年度以前より継続している活動

- ・湯洗槽用循環ポンプ設置し、ろ過により水の交換頻度を低減（含浸ライン）
- ・雨水を清掃時に利用（第 1、2 工場に設置）
- ・夏季、ガーデンミストクーラーを利用し、エアドライヤー周辺に散水（エアドライヤーエラー防止）
- ・夏季、屋根散水を止める
- ・製品耐圧試験用水道水の交換頻度変更
- ・処理数に合わせ、水洗槽の水道水交換頻度変更
- ・洗濯機設定変更（すすぎ 2 回→1 回）洗濯機使用回数制限

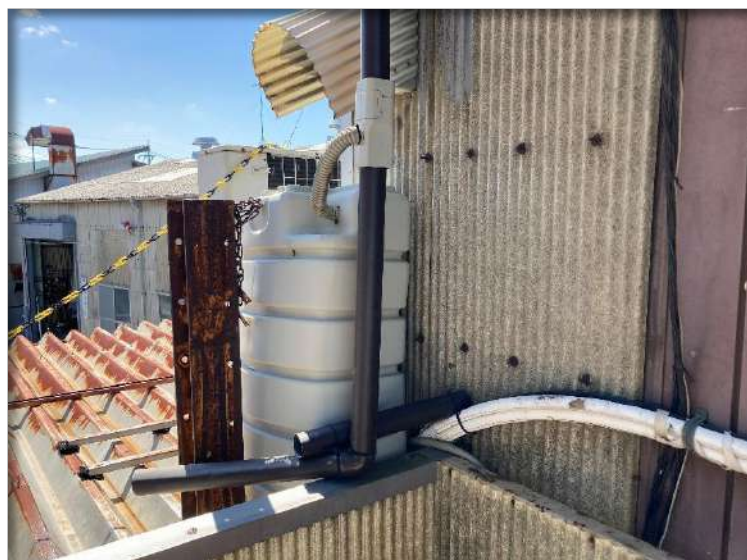


環境管理室長コメント



目標達成 😊

ろ過による水の交換頻度低減が主な要因。
総量は 1,560 m³。前期（基準期）は 1,572 m³
雨水を清掃時に利用する活動などは継続。



雨水タンク（第一工場）



朝夕、水道メーターを確認



雨水タンク（第二工場）



エアドライヤー 右（西側）ガーデンミストクーラー

ガーデンミストクーラー

不良削減（製品不良、設備異常の削減）

製品不良の削減



環境管理責任者コメント



今期より、異常連絡書発行基準を見直したことにより件数が増加。

未達



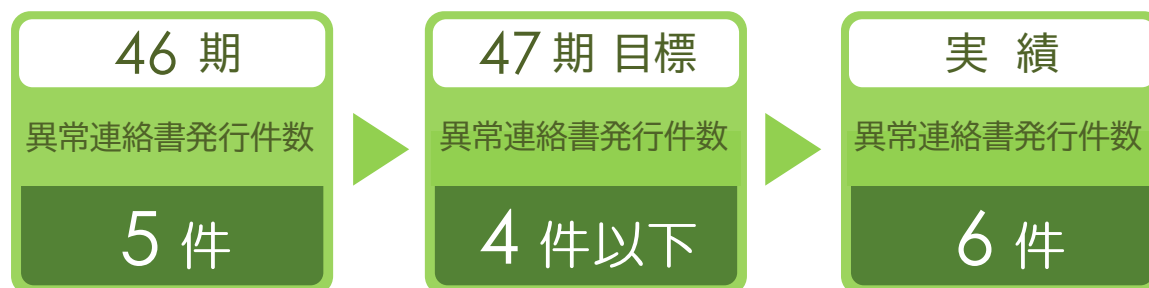
2023 年度の活動

- ・ガラショット製品投入量の適正化。ショット投入量ミス削減
- ・外注加工のチェックシートの改訂。社外クレームの削減
- ・外注加工戻り等の検査手順書の作成。社外クレームの削減

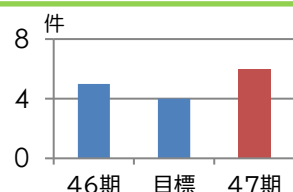
当年度以前より継続している活動

- ・社員教育の実施
- ・工程内容の見直し（機器設定、指示書改定・作業内容の明確化等）
- ・外注管理の見直しなど

設備異常(不良)の削減



環境管理室長コメント



夏期、猛暑により、エアドライヤー5機のうち処理空気が小さい1台が頻繁に停止。都度リセットしたことにより、圧力スイッチ不良に。このため、天候や気温により、リセット禁止時間帯を設けた。エアダスターガンは水が出ないことを確認してから利用。

未達



当年度以前より継続している活動

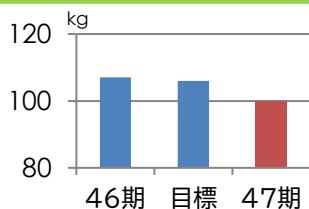
- ・ラインごとに、始業時・日常時・月次・年次点検を実施（主に製造課が担当）
- ・設備により、定期的に業者に点検・整備を依頼、または社内で定期整備を実施（施設管理課が担当）
- ・日々、始業時、工場巡視（施設管理課）
- ・2007年より、異常内容や原因、処置内容のデータ蓄積及び対策（施設管理課）
- ・OJTによる社員教育の実施（製造課または施設管理課）など

PRTR 関連物質の使用量の削減

★臭素系溶剤使用量の削減



環境管理室長コメント



目標達成



品質上、洗浄機内の臭素系溶剤の交換頻度を高めたが、溶剤再生装置の利用もあり、売上 1,000 万円あたり 7kg が削減された。

2024 年 10 月、
全自動 2 槽式真空超音波揺動
フラッシュ洗浄乾燥機に更新予定



臭素系溶剤三槽式脱脂槽

当年度以前より継続している活動

- ・製造 2 係:溶剤再生装置を利用し、新品の使用量を削減
- ・タンブラー塗装機の清掃時に利用する溶剤は、再利用品も使用する
- ・臭素系洗浄剤の洗浄タンクや脱脂槽の蓋をこまめに閉める

計画中の活動

- ・2024 年度中に、臭素系溶剤三槽式脱脂槽を全自動 2 槽式真空超音波揺動フラッシュ洗浄乾燥機に更新予定。洗浄剤を臭素系から炭化水素系に変更し、第一種指定化学物質である 1-ブロモプロパンの利用を止める計画

洗浄剤

1-ブロモプロパン
99%含有



洗浄剤

1-ブロモプロパン
非含有



溶 剤

こまめにキャップをする

近隣清掃



2023 年度の活動

- ・半年に一度、実施
(工場周辺 200m 四方の道路・路肩のゴミ拾い)
- ・A コース、B コース、二手に分かれ清掃

社員の負担軽減について

近隣清掃の活動日を、これまで仕事量が少ないという理由で、正月休み明け初日とお盆休みの連休明け初日に設定。しかし、寒い時期と暑い時期であるため、社員にとって負担という意見あり。
このため、8 月と翌年 1 月の実施月を 5 月と 11 月に変更。
2023 年度の 1 月実施後に変更となったため、5 月実施分を入れて 3 回となった。

46 期

実施回数

2 回

47 期 目標

実施回数

2 回

実績

実施回数

3 回

環境管理室長コメント

活動を始めた 10 年ほど前と比較すると燃えるゴミと燃やせないゴミの両方とも数袋分減っている。

目標達成



2023. 8. 21



2024. 1. 8



2024. 5. 6

次年度の環境経営目標及び環境経営計画

- ① 次年度の環境経営目標：中期環境目標ページ(P13)参照。
- ② 廃液の産廃量削減に向け、継続して溶剤等の再利用を進める。
- ③ 社外流出不良を削減し、ムダなエネルギー等の削減につなげる。

- ④ 引き続き副資材や化学物質の使用量を抑制し、購入量の削減に努める。
- ⑤ 環境経営目標に対する効果的な活動計画を推進する。

10. 緊急事態の想定

緊急事態	状 況	初期対応	手順書類	準 備
大 地 震	強震度地震発生による建物倒壊、工場内設備等の落下、転倒	緊急地震警報発報で手順に従い避難	大地震発生対応手順書、避難訓練マニュアル	緊急地震警報装置設置済
火 災	会社内、または近隣で一般火災発生	消火器で初期消火に努める。状況により消防署へ連絡	防災対策マニュアル ★119番通報マニュアル（火事用）	消火器設置済 防災対策マニュアル作成済
	工場内で機械設備から出火。電気配線から出火	電気系統遮断、炭酸ガス消火器で初期消火		
	含浸剤、油剤等から出火	粉末消火器で初期消火		
	有機溶剤の爆発的出火	避難（地震の対応に準ずる）		
薬品漏洩	リン酸処理液の流出	少量時は、土砂等に吸着等	薬品漏えい時の対応手順書	土のう、吸着剤、布ウエス用意済 薬品漏えい時の対応手順書作成済
	含浸剤の流出	乾燥砂等に吸着し回収		
	洗浄液の流出	流出防止策を講じる		
	溶剤類の流出	油吸着分解等で溶剤の吸着		



避難訓練の様子 2023年9月27日

緊急地震速報発令
（訓練用、周辺住民の方や周辺の会社様には予め連絡）

警報 → ゼロ時避難開始
（指定避難場所で30秒待機。机の下や柱の前など）

→ 一時避難場所で各自身の安全確保（各工場前）

→ 指定集合場所（駐車場）へ移動。

119番通報マニュアル(火事用)



いざという時に慌てないよう各電話付近に通報マニュアルを貼り付け



119番通報マニュアル(火事)

火事ですか・救急ですか？
火事です

住所はどこですか？
上尾市領家丸山70-3 グローバル・コネクション 2or3 工場です

何が燃えていますか？
〇〇〇〇が燃えています

近くに目標となるものがありますか？
道を挟んで手前に〇〇〇〇があります

あなたの氏名は？
〇〇 〇〇です

今おかけの電話番号は？
048-781-4582 です

- ・火事ですか・救急ですか？
- ・住所はどこですか？
- ・何が燃えていますか？
- ・近くに目標となるものがありますか？
- ・あなたの氏名は？
- ・今おかけの電話番号は？

火事です
上尾市領家丸山 70-3 グローバル・コネクション 2or3 工場です
〇〇〇〇が燃えています
道を挟んで手前に〇〇〇〇があります
〇〇 〇〇です
048-781-4582 です

事務所用

11. 主な環境関連法規の遵守状況

当社における環境関連法規の遵守状況等は以下の通りです。

【2023 年 12 月 15 日見直し】

主な環境関連法令	対応概要	遵守状況
大気汚染防止法	2010 年度より排出量を把握 2011 年フロン洗浄禁止	遵守
フロン排出抑制法	2011 年に HCFC141b の使用を禁止	遵守
道路交通法	2023 年 10 月 11 月、安全運転管理者講習受講	遵守
埼玉県環境保全条例	アイドリングストップの周知	遵守
水質汚濁防止法	1979 年 8 月 14 日、特定施設設置届出 2011 年 2 月 17 日、特定施設変更届出	遵守
浄化槽法	2023 年 11 月 14 日、第 11 条検査済	遵守
騒音規制法	8～19 時:規制 70dB	遵守
振動規制法	8～19 時:規制 65dB	遵守
土壌汚染対策法	リン酸ライン:過去も含め排出なし	遵守
悪臭防止法	環境パトロール実施。悪臭苦情無し	遵守
PRTR 法	2011 年から経済産業省及び埼玉県に報告書提出	遵守
毒物及び劇物取締法	毒物劇物取扱責任者 2 名	遵守
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	遵守
消防法	防火管理者選任済 危険物貯蔵所設置許可申請書等の届出済	遵守
公害防止管理者法	公害防止管理者水質1種、水質2種各1名届出済	遵守
上尾市環境基本条例	作業環境測定 年 2 回、浄化槽点検 年 1 回実施	遵守

違反、訴訟の有無

環境関連法規等の遵守状況調査を行い、法令違反が無いことを確認致しました。また、2022 年 7 月～2023 年 6 月、関係機関からの指摘はありませんでした。

12. 代表者による全体評価と見直し及び 組織の概要と主な事業内容

代表者による全体評価と見直し

環境経営方針	変更の必要性 ☐ 有 ☒ 無	実施体制	変更の必要性 ☐ 有 ☒ 無
環境経営目標・環境経営計画	変更の必要性 ☐ 有 ☒ 無	その他	変更の必要性 ☐ 有 ☒ 無
総 括	既存・実施済みの目標を改めて見直し、アップデートを行い精度を上げる活動を視野に入れる。 既に実施されている活動を見直す事により当たり前のレベルが上がる事を狙う。 常務の提案も含め、管理職による意見集約・再チェックにより簡素な手続きで社員が活動を行えるようにする。 2024 年 8 月 22 日 代表取締役社長 鈴木 敦		

組織名称及び代表者

グローバル・コーティング株式会社
代表取締役社長 鈴木 敦

<http://www.globalcoat.com>

設 立 1977 年 11 月 22 日

資 本 金 1,000 万円

所 在 地 本 社 〒101-0047 東京都千代田区内神田二丁目 12 番 6 号 内神田 OS ビル 9 階

上尾事業所 〒362-0066

第 1 工 場 埼玉県上尾市領家山下 1178-3

第 2 工 場 埼玉県上尾市領家丸山 70-3

第 3 工 場 埼玉県上尾市領家丸山 70-8

第 4 工 場 埼玉県上尾市領家山下 1178-13

食堂・駐車場 埼玉県上尾市領家丸山 58-2



第一工場



第二工場



第三工場



第四工場



食堂・倉庫・駐車場

売上高

事業年度	7月～翌年6月				
活動規模	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	万円	67,823	74,390	74,007	67,720
従業員数	人	29	33	36	33
床面積	m ²	1,250	1,250	1,250	1,250

対象範囲

業 務	グローバル・コーティング株式会社 上尾事業所における全組織全業務活動
対 象 者	グローバル・コーティング株式会社 上尾事業所 全従業員

本社は登記上の事情によるものでグループ他社の拠点になっており、
弊社は上尾事業所にて全ての事業を行っている。

環境管理責任者 常務取締役 竹澤 勉

環境管理室長 管理部 次長 平山 和久 TEL.048-781-4582

主な事業内容

乾性潤滑被膜処理



乾性潤滑

従来、オイル・グリース等で行っていた潤滑を、
二硫化モリデン、フッ素樹脂コーティングすることにより、
摩擦係数を下げ、耐摩耗性を向上させることができます。
また耐熱、耐寒性、特に二硫化モリブデンは耐荷重性にも優れ、
過酷な条件下で優れた潤滑特性を発揮します。



潤滑防錆

個体潤滑コーティングは防錆力にも優れ、潤滑性と同時に防錆能力を向上させることができます。
また、特殊な下地処理と組み合わせることによって、より優れた耐蝕性を発揮することができます。

粉末冶金製品



機械加工性応用製品例

機械加工性

焼結金属を切削する場合、工具寿命・加工精度等、種々の問題があり、また材質によっては、切削不能となることもありました。「グローバルシール」は、切削性の大幅な改善をお約束いたします。

- 工具寿命を数倍に
- 切削スピードのアップ
- 加工精度の向上

これにより加工コストの大幅な低減が図れます。

表面封孔性

「グローバルシール」は、内部空孔へ充填はもとより、表面封孔性に優れ、部品表面からの油・溶剤・メッキ液等の侵入を防ぎます。それにより、メッキ性・塗装性が改善され、美観・耐蝕性が大幅に向上します。自動車内外装用焼結部品等、耐蝕性が要求される部品に適応されます。



含浸処理前

含浸処理後

封止性

焼結金属は通常、低密度品で 20%、高密度品では数%空孔を有し、その空孔が使用上、製造上欠陥となる場合があります。「グローバルシール」は、この欠陥となる空孔に充填され、耐圧性、耐蝕性・封孔性・機械的強度の向上等が得られます。オイルポンプ・カップリング等油圧部品、空圧部品等に適応されます。

樹脂モールド製品



フラテクトシール

エンジンルーム内や車輪の付近等の熱・水分・油分の厳しい環境下で使用する樹脂コネクタやセンサーは高い信頼性が要求され、金属端子とモールド樹脂のわずかな隙間が大きな問題となります。フラテクトシールはそのわずかな隙間にのみ充填され、より効果的にシールすることにより、高い信頼性を付加します。